

北栄町シトラスリボンプロジェクト 始動 差別を許さず、広げないため できること

5月10日、新型コロナウイルスの陽性者が確認され臨時休校していた大栄中学校が2週間ぶりに再開され、同日、全校生徒でコロナ差別をなくすシンボルとして全国で広がっているシトラスリボンを製作しました。

シトラスリボンプロジェクト

シトラスリボン運動は、愛媛県の有志グループが新型コロナ収束と差別や偏見がなくなることを願って考案し、地域、家庭、職場(学校)を表した三つの輪を叶結びしたリボンを着用する運動です。

大栄中学校では、コロナ差別を許さない人権尊重宣言の取組みを生徒会主導で実施しており、陽性者が確認されたことでコロナが一気に身近になったことを捉え、今回の取組みにつながりました。

今後、北栄町でも、この取組みを「北栄町シトラスリボンプロジェクト」として推進します。

私たちができること

ハンセン病元患者への国の強制隔離政策を憲法違反と判断した国家賠償請求訴訟の判決から5月で20年となりました。

新型コロナウイルス感染症でも誹謗中傷、偏見などさまざまな問題が後を絶ちません。そしてこの問題はハンセン病の問題と重なると指摘されています。

知識がないことや行動しないことが、差別を許し、差別を広げることにつながらないか。

私たちにできることは何か。大栄中学校の取組みもヒントになるはずです。